

鮎川美介 あしかば 實業家。明治十二年十一月六日山口縣生れ、昭和四十二年一月十二日没（八八〇—一九七）。明治二十六年東京帝國大學工科大学機械科卒。芝浦製作所を經てアメリカに渡り、鑛鐵技術を習得して歸國後、日烟鑛物會社を設立。昭和三年經營放棄して入京鑛業株式會社を引繼ぎ、日本産業を改組、諸會社を編入して日産コンツエルンとして再生發展せしめた。二十八年參議院議員。

著書、『日産』の清洲終戦—私の對清産業開發投資』（昭和十二年十一月）『二十七年東洋經濟出版部』、『東洋經濟パンフレット』（鮎川美介縱横談』（友田壽一郎編、昭和二十八年四月）、『日創元社』（等、利田日出古著、『鮎川美介』（昭和十二年一月）、『二十七年春秋社』（小島直記著、『鮎川美介伝—赤い夕陽の昭和史』（昭和四十二年五月十日日本文學出版会）がある。

